



昭和大学江東豊洲病院だより

2023年2月号

第106号

巻頭言

麻酔科

教授 ^{すすき}鈴木 ^{たかし}尚志



この『病院だより』が麻酔科を取りあげるのも、発刊以来三度目になりました。そこで、今回はこれまでとは違った視点から当科を紹介します。現在の先進的な大規模病院では、様々な職種の医療従事者が勤務し、多くの診療科が設置されています。初診時にどの診療科を受診するのか迷われる患者さんも少なくないようです。

それらの診療科のなかで、一般的な外来を設けていない幾つかの科目があります。いわば、病院を陰で支える存在ですが、皆さんは幾つくらい思い浮かべられるでしょうか。例えば、臨床病理診断科、放射線診断科、集中治療科、麻酔科などが該当します。何れも疾病自体を直接治療することはありませんが、診療上の指針を提供し、診療を円滑に進める役割があります。陳腐な表現ですが、『縁の下の力持ち』といった役割です。病院を舞台にした昨今のテレビドラマでも、こうした診療科も登場しているので、巷間の認知度も高まっているように思います。公的機関が病院の機能を評価する上で、こうした診療科に従事する医師が確保されているかどうかは、判定材料の一つになっています。

診療科を標榜する上で、麻酔科は他科とは異なる点があります。定められた選択肢があるものの、病院や医院は診療科を自由に標榜して広告することが、制度上は可能です。しかし、麻酔科の場合は、所定の麻酔の修練を受けた医師として厚生労働省が認定した麻酔標榜医が、常勤医として病院に在籍していなければ、麻酔科を標榜することができません。当院の正面玄関の左側に掲示されている案内には、診療時間や休診日などと並んで当院の診療科目が列記されています。それらのなか、麻酔科だけは人名が付されています。これは他の病院でも同様です。『麻酔科を広告するときは麻酔科標榜許可を得た麻酔科医の氏名を併せて広告しなければならない。』という厚生労働省の通達があるからです。そういう訳で、筆者の名前が併記されているのは、面映ゆい次第です。栓のない話を書き連ねたようですが、患者さんの目には留まらない多数の病院職員が、協同して医療を実践していることを、ご理解願えれば嬉しく思います。

最後になりましたが、麻酔科医は手術前後の医療を円滑に進める役割を担う、急性期病院では不可欠な存在です。さらには、無痛分娩、集中治療、ペインクリニック、緩和ケアなども、麻酔科医が進出している関連領域です。当院の麻酔科医は『気は優しい力持ち』が揃っているので、気軽にお声がけください。



第106号のトピックス

- ・巻頭言（麻酔科）
- ・薬剤部長就任のご挨拶
- ・宿泊型産後ケアのWEB予約ができるようになりました
- ・2月20日はアレルギーの日
- ・公開講座のご案内（2月28日まで）
- ・ご支援への御礼
- ・編集後記

薬剤部長／^{かしわばら} 柏原 ^{ゆか} 由佳

2023年1月1日より、昭和大学江東豊洲病院の薬剤部長を拝命いたしました柏原由佳（かしわばらゆか）と申します。私は、昭和大学病院に入職し、薬剤師として、そして病院組織・大学組織の一員として様々な経験をさせていただき、6年前に江東豊洲病院勤務となりました。この度は、ご挨拶の機会をいただき有難うございます。薬剤部の紹介とともに、皆さまへのご挨拶をさせていただきます。



私が入職した当時は、病院薬剤師の業務は、調剤・製剤・医薬品の管理といった、まだまだ対物業務が中心でしたが、時代の変化とともに、それらの業務はAI（人工知能）へと置き換わりつつあります。

今では、病棟や外来において、患者さんへの服薬説明やご相談、医師とともに治療薬を考え、患者さんおひとりおひとりへの最適な剤型・投与経路の選択、他の薬や食べ物との飲み合わせのチェック、薬の効果や副作用の確認といった、薬による治療の実践に重点をおいた臨床業務が中心となっています。

薬剤部では、多様な医療スタッフ・研究者と積極的に協働し“くすりの専門職”として常に責任ある行動を心掛け、すべての薬剤師が誠意をもって最善の医療を提供することで、患者さん中心の医療チームを目指しています。

わたしたち昭和大学江東豊洲病院の薬剤師は、

- ❁ 医薬品を正しく理解し、患者さんにお薬を正しくご使用いただくため、「安全で安心なまごころを込めた愛ある医療」を提供し続けることを使命としています。
- ❁ 木々の緑・きらきらした水面・青い空が豊かな豊洲地域一丸となり、近隣の医療機関・保険薬局と常に連携し“地域で国民の命と健康を守る病院の薬剤師”であり続けます。
- ❁ 決しておごらず、常に研鑽し、後進を育成する環境を維持してまいります。
- ❁ 医療の発展に貢献するために、熱い探究心を持ち続けます。

この3年間は、新型コロナウイルス感染蔓延により、患者さんには大変ご不便をおかけしました。当院も環境整備をはじめ種々学ばせていただきました。これからも、豊洲地域での当院の役割とは何なのか、常に問題意識をもち、患者さんにとって「頼りがいのある最強の味方」でありたいと思います。そのために、豊かな心でいられる人材育成を行い、患者さんやご家族・地域に貢献できる薬剤部であり続けるような組織にまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



Pick up

宿泊型産後ケアのWEB予約ができるようになりました

宿泊型産後ケアのWEB予約フォームが開設されました。

ご利用を希望される場合は、右記からご予約をお願いいたします。



[<予約フォーム>](#)

1、産後ケアとは

出産後のお母さん自身のところと身体を回復してもらうために様々なケアを受けることのできるサービスです。産後の育児支援を目的とし、看護師、助産師をはじめ、産後うつなど精神的な問題がある場合は精神科医師も介入するなど、多職種で産後間もないお母さんのケアにあたります。

2、利用できる対象の方（産後4ヶ月未満の方で、以下の方が対象です）

1、当院で出産された方

2、江東区在住で他施設で出産された方

※江東区在住で産後ケアを利用する方は、保健所へ事前申請が必要です。

また、江東区在住の方は助成を受けることができるため、最寄りの保健所へお問い合わせください。

※江東区以外の方もご利用いただけます。



産後ケアについての詳細はこちらからご確認ください。



2月20日はアレルギーの日

2月20日は、財団法人日本アレルギー協会が制定したアレルギーの日です。1966年2月20日に石坂公成先生・照子先生がアレルギーを起こす原因となるIgE抗体を発見したことから1995年にアレルギーの日に制定されました。

さらに、毎年2月17日から23日の1週間を「アレルギー週間」とし、全国各地で様々なアレルギーの啓発普及活動を行っています。



Pick up

公開講座のご案内（2月28日まで）

昭和大学江東豊洲病院では、住民の皆さんにわかりやすく医療の知識を深めていただくために2月28日（火）まで公開講座を開催しています。病院ホームページもしくは下記QRコードからぜひご視聴ください。

- ◆ テーマ：知って備える「あたま」の病気
- ◆ 掲載期間 令和4年12月1日（木）～令和5年2月28日（火）



Report

ご支援への御礼

新型コロナウイルス感染症の治療にあたる医療従事者に対して、多くの皆様から労いのお言葉や心温まるご支援を頂戴しています。お心遣いに心から感謝申し上げます。

今後も私たちは皆様からのご支援を力に変え、引き続き安全・安心な医療の提供に努めてまいります。皆様からのご支援に対し、重ねて御礼申し上げます。

なお、ご支援の詳細は当院ホームページでも掲載しております。



編

集

後

記

2月「如月（＝きさらぎ）」になりました。皆様ご存じの通り、現在は旧暦の2月（現在の3月前後）である「如月」を新暦の2月の別名として使用されています。「如月」の由来ですが、春に向かって草木が生え始める季節、寒さがまだ厳しい季節など、諸説あるようです。現在の2月は突然の雪や寒波が訪れることもしばしばで、どちらかというと後者に近い印象ですね。

さて、昭和大学江東豊洲病院は3月24日で開院して9年を越えます。私にとっての2月ですが、9年前の雪がちらつく景色の中で、まだ何も無い病院内で開院時メンバーと共に不安と夢を持って開院準備をしていた記憶が鮮明で最近のようでもあります。いずれにしても、新しい春の訪れ（生命の誕生）が待ち遠しい毎日です。

副院長・周産期センター長 おおつき かつみ
大槻 克文



昭和大学
SHOWA UNIVERSITY

昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院
Facebook ページ

Showa University KotoToyosu Hospital